

福音書に記されているイエスの復活に関する記事は初代教会に伝えられた伝承、イエスを葬った墓が空であったという伝承と神さまにより死人の中から復活させられたイエスが弟子たちに姿を現したという伝承、に基づいています。これらの伝承はイエスは十字架につけられて殺された、死んでいるという経験とイエスは生ける者として私たちに現れた、生きているという経験に基づくものです。この二つの経験はそれを経験した人にとっては全く疑う余地のないものでした。今日の箇所ではこの二つの伝承が結合されています。マリアの知らせを聞いてペトロと共に墓に来たもう一人の弟子は遺体がないのを見て、イエスが復活させられたことを信じます。しかし、二人はまだイエスの復活という出来事が何であるか、自分とどう関わるのかという意味では理解してはいませんでした(9節)。そのため、彼らはイエスの復活を人々に伝えることもなく、戸に鍵をかけて閉じこもってしまいました。一方、マグダラのマリアは墓の外に立って泣いていました。今日の箇所の中で「どこに置かれているのか、分かりません」というマリアの言葉が3回繰り返されていますように、彼女はイエスの体がないことにこだわり続けていました。イエスが近寄ってきた時、彼女は後ろを振り返り、誰かがそこに立っているのを認めるのですが、誰であるかわかりません。イエスはマリアに、「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを探しているのか」と問います。「だれを探しているのか」とは「あなたを探している者はここにいる」という意味です。イエスが「婦人よ」ではなく、「マリア」と呼びかけることによりマリアはすぐそばにいるイエスに気付きます。肉体の死によって断たれた人格的な愛と信頼の交わりが回復したのです。イエスは「わたしにすがりつくのはよしなさい」と言いました。生前のイエスと目の前の復活させられたイエスとを区別できないマリアに対して「私は父なる神のもとへ上っていく者だ。地上にあった時の私とは違う。もう以前のように直接触ったり、話したりすることはできない。あなたは私に気付かなかったが、私はあなたと共にいた。そのことを信じて生きていくのだ。」と言ったのではないのでしょうか。マリアへの顕現物語は空の墓の意味、イエスは死人の間にはいず、生きている者と共にいることを強調しています。イエスは共に生きていることが復活物語の中心的確信です。イエスは歴史的人物だけでなく、今日の私たちにも関わる存在なのです。復活させられたイエスは今も生きて働き、私たちと共にいるのです。私たちはそのイエスと出会ってしまったが故に、イエスの復活を信じているのです。